

令和5年度（2023年度）第3回東海市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和6年（2024年）1月23日（火）
午後1時30分から2時20分まで
- 2 場 所 603会議室（庁舎6階）
- 3 出席者 花田市長、加藤教育長、木村教育委員、久野教育委員、石川教育委員、
村上教育委員、堀ノ口教育委員、星川副市長
企画部 成田企画部長、加藤企画部次長兼財政課長、内山企画政策課長、
川合統括主任、鶴見主任
教育委員会 小島教育部長、鈴木教育委員会次長兼スポーツ課長、桜井学校教育課長、
明壁主任指導主事、大石指導主事

4 議事内容

企画部長：

皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度第3回東海市総合教育会議を開催いたします。

私は、進行を務めさせていただきます企画部長の成田でございます。よろしくお願いいたします。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、公開することとなっております。

また、本日の議事録につきましても、後日、公表することとなりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日は傍聴の方がいらっしゃいますので委員の皆様にお知らせいたします。傍聴する方は、傍聴者の遵守事項を守り、会議の円滑な進行に御協力いただきますようお願いいたします。

会議に先立ちまして、資料の確認をお願いいたします。

本日の資料は、事前にお送りしました次第、資料1「第2次東海市教育、学術、文化およびスポーツの振興に関する総合的な施策の大綱（素案）について」、資料2「第2次東海市教育、学術、文化およびスポーツの振興に関する総合的な施策の大綱（素案）へのパブリックコメントに関する意見の概要及び市の対応の方向性について」、資料3「第2次東海市教育、学術、文化およびスポーツの振興に関する総合的な施策の大綱（素案、概要版）」、資料4「中学校部活動の地域移行について～地域の子どもたちを地域で育てる新たな環境の整備～」、資料4-1「東海市中学校部

活動の地域移行に伴うアンケート調査結果（児童・保護者）」、資料4-2「東海市中学校部活動の地域移行に伴うアンケート調査結果（教職員）」、資料4-3「中学校入学説明会資料『東海市の部活動改革』」でございます。

不足がございましたら、事務局までお申し付けください。

それでは、はじめに市長からあいさつを申し上げます。

市長：

皆さん、改めましてこんにちは。

本日は、大変お忙しいところ、総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆さまにおかれましては、日頃から本市の教育行政はもとより市政各般にわたりまして、ご支援・ご協力をいただいておりますこと、この場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。

さて、今年度の総合教育会議のテーマである「第2次東海市教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策の大綱」の策定につきまして、前回の会議では、次期大綱の素案について協議を進めてまいりました。

今回は、最終的な次期大綱の素案を確認してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

また、「中学校部活動の地域移行」については、第1回の会議で中学校部活動の現状を共有し、子どもたちにとってより良い体制について協議を進めてまいりました。

今回は、地域移行の方向性や課題、課題解決の手段等について検討し、令和7年9月以降の実施に向けて、協議を深めてまいりたいと考えております。

最後になりますが、教育行政の推進に向けて、市長部局と教育委員会が連携を図る貴重な機会でございますので、東海市の未来、また日本の未来を担う子どもたちの、健やかな成長を支えることができる取組について、積極的な議論をお願いし、私からのあいさつとさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

企画部長：

続きまして、教育長からあいさつをお願いします。

教育長：

改めましてこんにちは。

本日は第3回の総合教育会議ということで、よろしく願いいたします。

内容としましては、第2次東海市教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する

総合的な施策の大綱の策定と、中学校部活動の地域移行についてということでもご協議いただくということでございます。

中学校の部活動の地域移行につきましては、本年度、地域移行推進委員会を設けまして、4回ほど協議を重ねてまいりました。いろいろと理解を深める部分の中で、少しずつ方向性が見えてきたという段階であると思っております。本日はそういう方向性もいろいろとご協議・ご意見いただきながら、そして来年度以降にどんなことを決めていく、進めていくことについて、課題・問題いろいろあるかと思いますが、今日のご議論の中で出てくるとよいと思います。よろしく願いいたします。

企画部長：

ありがとうございました。

それでは、議事につきましては、会議次第に沿って進めていきたいと思っております。

早速ではございますが、次第1協議事項(1)の「第2次東海市教育、学術、文化およびスポーツの振興に関する総合的な施策の大綱」の策定についてを企画政策課長から説明いたします。

企画政策課長：

それでは、資料に基づき、「第2次東海市教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策の大綱の策定について」ご説明いたします。

資料1の「第2次東海市、教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策の大綱(素案)について」をご覧ください。

次期大綱の素案につきまして、11月22日から12月21日までの期間でパブリックコメントを実施いたしました。その結果、意見の提出が1件ございましたが、本大綱の内容に影響するものではございませんでしたので、今回のパブリックコメントによる大綱の修正はございません。

なお、今回いただいたご意見の内容につきましては、資料2の「第2次東海市教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策の大綱(素案)へのパブリックコメントに関する意見の概要及び市の対応の方向性について」をご覧ください。

いただきましたご意見につきまして、「意見の該当箇所」の記載はございませんでした。「意見の概要」につきましては、「読むべき資料のページ数が少なくパブコメできず。」という内容のご意見でした。

「意見に対する市の対応の方向性」につきましては、本教育大綱の位置付けを示す内容として、表の右の欄に記載のとおり、「本大綱は、本市を取り巻く社会環境の

変化や教育などの課題を踏まえ、「第7次東海市総合計画」を推進するにあたり、「とうかい教育夢プランⅢ」との整合性を図るとともに、教育委員会との緊密な連携が求められる取り組みの方向性などを示しています。」と市の考えを示す内容を公表する予定をしております。

パブリックコメントにつきましては、以上でございます。

次の資料3をお願いいたします。

こちらが次期大綱（素案）及び概要版でございますが、こちらにつきましては、前回の第2回の会議から変更はございません。

なお、今後の予定といたしましては、本日の会議でご審議していただいたのち、2月中旬に策定し、3月議会の全員協議会で報告する予定をしております。

以上で、説明を終わります。よろしくをお願いいたします。

企画部長：

ただいま説明をさせていただきました内容につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらご発言をお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは議事を先に進めさせていただきます。

次第1協議事項（2）の「中学校部活動の地域移行について」を教育部長から説明いたします。

教育部長：

協議事項（2）中学校部活動の地域移行について、ご説明させていただきます。それでは、資料4をお願いします。

文部科学省が令和5年度から令和7年度までを「改革推進期間」として展開している中、本市においては、現在、原則土日のどちらかに半日行っている休日の部活動を、令和7年度の9月から行わないこととし、その後に中学生が参加できる活動の場、生涯にわたって地域で育っていく環境づくりを進める中、その方向性として、

1の（1）スポーツ活動につきましては、「スポーツクラブ東海」の各競技部が実施する「ジュニアクラブ運営事業」の活動を中心に中学生の受け入れを行うことで、専門的な指導者を確保し、各中学校に活動場所を設置することを目指してまいります。

（2）文化芸術活動については、市内6中学校すべてに設置され、休日にも活動を行っている「吹奏楽」は、現在、受入団体が存在しないことから市教育委員会で主導しながら専門的な指導者を確保し、各中学校で活動できることを目指します。

また、これ以外の活動、スポーツ推進委員会主催事業や学校体育施設スポーツ開

放利用団体、各種文化芸術活動団体など、種目や曜日を問わず幅広い活動の場を情報提供し、参加につなげていきたいと考えております。

2の地域移行に関するアンケート調査についてでございますが、小学校4年生から6年生の児童とその保護者、市内小中学校の教職員を対象として10月から11月にかけてオンラインで実施しました。その結果について説明させていただきます。

児童と保護者の対象者は3,510人、回答者1,669人で回答率は47.5%、6年生の約6割、5年生の約5割、4年生の約4割から回答をいただきました。教職員は、対象者594人、回答者数371人で回答率は62.5%でした。

児童と保護者の調査結果について、資料4-1をお願いいたします。

児童の回答として、1枚目の一番下、Q3、中学校入学後の休日に行いたいことは複数回答可としておりましたが、「軟式野球」から「テニス」までのスポーツ活動は1,540人、「吹奏楽」111人、それ以外は511人と回答があり、延べ2,162件となりますので、多くの子どもたちが、幅広く、複数の活動を望んでいる一方、特に活動したいことはない児童が約3割、492人という結果となりました。

裏面にまいりまして、ここからは保護者の回答で、Q4「休日の地域活動に期待すること」こちらも複数回答可としておりますが、「専門的な指導を受けることができる」が860件、「生徒が望む活動への参加が可能になる」が727件、となりました。

Q5「休日の地域活動参加での心配ごと」こちらも複数回答可としております。「活動場所までの移動」が1,249件、「練習試合や大会等の送迎」が994件、「参加料等の費用負担」が901件となっており、また、次ページQ6で参加に後ろ向きな回答をされた280人の保護者においても、その理由として示されており、負担が増えることに関心があることがうかがえます。

同じくQ6、休日に地域活動へ参加することについて、「希望する」、「どちらかといえば希望する」と回答した保護者は合わせて921人、55.2%で、地域活動がしたいと思う児童と比較して15.3ポイント低く、子どもたちの活動意欲の高さを確認することができました。

資料4-2をお願いいたします。こちらは教職員の調査結果ですが、裏面中ほど、Q4「土日に東海市の地域指導者としての活動希望の有無、では、12人(3.2%)が希望する、条件(報酬、活動内容等)次第が32人(8.6%)の合計44人(11.9%)が指導者としての活動希望がございました。

アンケート結果が全てではありませんが、多くの生徒が自ら希望する活動に参加す

ることができる環境を整えるためには、資料4、の裏面2ページに戻っていただき、「3 地域へ移行するにあたっての課題」として、多くの活動を広く地域で行うためには、専門的指導者と練習場所の確保、保護者負担の軽減が課題であると考えております。

その解決手段の案として、4の(1)スポーツ活動 においては、現在のスポーツクラブ東海の運営体制などでは事業拡大が困難であることから、アとして事業を拡大実施するために必要となる経費に対する補助や、イとしまして施設利用についての柔軟な対応、実施場所を増やすために必要となる指導者を確保するため、ウの「指導者バンクの設立及び運営」が挙げられます。(2)文化芸術活動においては、将来的に地域において指導を希望する者を吹奏楽部の顧問の指導補助を行う「外部指導者」として中学校に派遣・育成し、地域団体としての独立につなげつつ、母体となる運営団体の設立や活動場所を確保することで、課題を解決していきたいと考えております。

5の令和6年度以降の検討・実施事項では、(1)指導者の確保として、ア 地元企業や大学、各種団体等への協力体制を強化し、指導への参画を促す方策の検討、イ 技術面だけでなく、生徒への対応なども含め、指導者としての資質向上を目的とした講習会等の開催、ウ 指導者として活動を希望する教職員への情報提供など、(2)の保護者負担の軽減としましては、参加者負担金などについて検討をしております。

続いて資料4-3でございますが、こちらにつきましては2月1日に各中学校で開催される入学説明会において、保護者の方へ配布する資料を添付させていただきましたので後ほどご覧いただければと思います。

活動のモチベーションとなる大会の在り方などがはっきりしない中、課題は多くありますが、休日に限らず、放課後などにおいても、また、スポーツや文化芸術活動だけでなく、生徒たちそれぞれのニーズに合った活動を行える場を提供し、将来にわたって親しむことができるような環境づくりを進めていきたいと考えております。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

企画部長：

ただいま説明をさせていただきました内容につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらご発言をお願いいたします。

木村委員：

こちらのアンケート結果を見ますと、複数回答ではございますが、いろいろなスポーツをたくさん子どもたちがやってみたいということも非常にわかりますし、土日を考えるという意味ではすごくわかりやすく子どもたちの意見を反映していると思います。また、保護者の方の意見の中でやはり負担のことが一番心配だというのは、アンケート結果を見てても十分わかりますので、そこを少しでも改善していただけるような知恵を出していけるとよいと思っているところです。

教育部長：

複数回答ですので、これが実質的な数ではありませんが、活動希望はいろいろあるということがわかりまして、やはりスポーツクラブ東海の方でも受け皿はありますが、もう少しないといけないと感じています。保護者の負担ということで、やはり参加費の心配をされているとのご意見がありますが、ただ、地域で運営していくとなると資金や活動費が必要になってまいりますので、どのように負担軽減が図れるか、また、移動の問題というのが大きくご意見の中でありまして、その点についてはやはり身近なところで活動場所にできるようなところで整理をしていきたいと考えております。

村上委員：

今このアンケートというのは、一定の情報としてこれから取り組むうえでの大変貴重な情報だと思います。アンケートは割と比較的簡単に情報収集がしやすい方法なのではないでしょうか。もしそうであれば、始まってからこう思ってたけど実際にどうだったかという情報収集にアンケートを使ったりする計画がありますか。

学校教育課長：

以前は基本紙ベースだったため、オンラインになって集計の方とかは格段に早くできるようになりました。今回は小学校から次に中学校に上がる方で、まだイメージがつかめていない方も多いと思いますので、今後思ったのと違ったという部分は、実際の参加者数を見ていけばある程度追えるのかなという部分もありますが、ただ実際のご意見としてここをこうしてほしいといった部分については、毎年ではなくてもある程度定期的にアンケートをとって情報収集をしていく必要があると思っています。

副市長：

児童アンケート結果のQ3で「特に活動したいことはない」と答えたお子さんはおそらく複数回答はしていないと思われます。この質問で終わっているため、実際に何をするかわからないが、現場の指導主事の先生は子どもたちが何をするかどの

ように想像されますか。

保護者の方は経済的な負担などに不安を抱えているということですが、令和7年9月までには不安を解消できるような手段をある程度示していきますか。

今回のアンケートは小学校4～6年生対象ですが、現在中学生の方に土日の活動がなくなった場合はどうするかと聞いた場合と大きく違いが出てくるのではと思いますが、今後アンケートの対象者が中学校に上がった場合は、回答として土日に何かをやりたいと思うのか、やりたくないと思うのかどちらが多くなるか、現場の先生のイメージで結構ですので、お答えいただければと思います。

学校教育課主任指導主事：

昨年、中学校1～3年生を対象にアンケートを行いました。そのときに中学校の部活動が平日の練習のみとなり、土日の練習がなくなったら、土日はどのようにしたいかという質問に対して、今行っている部活動や学校外の活動と同じ種目や違う種目をやろうと思っていないという回答が52.9%、半分の子はやろうと思っていないということでした。今中学生の子たちは、平日も土日も部活動を行っているので、土日がなくなったら土日は休みたいと思っているか、自分の趣味をやろうと思っているのか、やはり少し休憩がしたいのかなというイメージを持ちました。小学生も同じ傾向であると思っております。今回のアンケートで「特に活動したいことはない」と答えた人数492人で29.5%になるものですから、若干これよりもやらないという子も増えてくるのかなという感じですが、部活動を実際にやっている子と部活動のイメージがついていない子とでは違うと思いますが、来年1年間やってみてどうなるかというのは、ひょっとしたら土日は何もやらないという子が増えてくる可能性もあるという予想をしています。

学校教育課長：

保護者の方の不安解消、懸念されるところにつきましては、来年度も検討委員会の方で協議を進めていきますので、できる限り情報発信ということで新たに決まったことやスポーツクラブ東海の方で今やっている事業よりもいろいろなところでできるようになった等、そういった部分についてこまめな情報発信をして、できるだけ保護者の方の不安がないような形で令和7年9月を迎えていきたいと考えております。

久野委員：

たまたま東浦の保護者の方に話を聞かせてもらいました。学校までバスで通う地域の子でしたが、卓球を行っている会場まで友達と自転車で行けるようになって子

どもたちも喜んで行っている、参加料の負担も1,500円程度でやっていただけるならありがたい、その代わり自分たちが手伝うことができないのでそれぐらいの参加料で子どもを面倒見て興味を持たせてやっていただいているというのも感謝しているということでした。また、学校が違う他の子達と一緒にできるということを楽しんでいるという話も聞くことができました。

学校教育課長：

東浦の事例についてお話していただいた中で、東浦の方より若干東海市の方が面積が広いので1か所でとなると少し自転車では難しい部分もあると考えておりますので、できるだけ近いエリアで活動できるように進めてまいりたいと考えております。

また、参加料についても全てを無料というわけにはいかないと思いますが、できるだけ安価な設定ができればと考えております。

あと、他校の子と新たな人間関係が作れて良いという部分もあれば、他校と絡むのが心配だという両面あると思います。そのあたりについては、講師の先生方との調整になるかと思っておりますので、できる限りうまくやっていただけるような形で講習会等も活用しながら対応をしてまいりたいと考えております。

石川委員：

これまで公教育で行われてきた部活動の考え方を、この地域移行のタイミングで保護者の方も当事者の子どもたちも、先生方も大きく変えないといけないと感じました。いろいろな方のご意見を見ますと、賛否両論のご意見があります。外部でスポーツをやろうと思っても、お金がかかったり移動の時間がかかったりということがあるので、学校でやっていただくことは非常に意義があると思うというご意見もあるし、小中学生の時期は、いろいろなスポーツや文化活動に触れて、生涯スポーツや生涯文化活動を見通していろいろなことを経験することが大事だという記事もありまして、そういう考え方に転換をしないといけないと強く思いました。

今の学校の部活でやっていることをそのまま地域でやってもらうイメージよりも、子どもたちにもう少し心の余裕や時間の余裕を持たせて、いろいろなことに挑戦する時間や、いろいろなことを考える時間など、自分自身で考えるということはやはり時間的にも余裕がないとできないことなので、そういったことをやれる時間を作る、無理にみんな何かスポーツや文化活動やりなさいということでもないという気がしています。

余裕がない子どもたちゆえに、少し飛躍してしまうかもしれないですが、いじめ

の問題や不登校の問題などにも少し絡んできているのかなという気もします。

ちょうど良い変革期だと思いますので、まず学校の部活動の考え方をみんなでチェンジしていかないといけないと強く感じています。

教育部長：

すごく大切なことだと思います。部活動の地域移行という言葉で最初に出ているため、地域の方でそのまま部活動をやっていくという捉え方をされてしまうことがあります。そうではなく切り離して考えることがすごく大切です。休日のスポーツなどの活動と平日そのまま学校で残っていく部活動は切り離して、部活動改革ということで、スポーツなどいろいろな活動の受け皿を作って、いろいろな体験の場を増やすことが大切かなと思っており、情報発信して皆様に理解をしていただくことが必要であると感じております。

教育長：

資料4-3を後日実施する、中学校入学説明会で保護者の方へ配布予定です。保護者の方によくご理解していただけるようにまとめたものですが、裏面を見ていただきますと特にスポーツクラブ東海がジュニアクラブという形で、すでにこれだけの種目で子どもたちを受け入れて非常に前向きにやっていただけるということは大変ありがたいなと思っております。ただ、平日にやっていただいているものもたくさんあるが、まだ土日に部活動があるのでなかなか活動がしにくいという側面もあってこういう形になっています。あと会場についても、それぞれ市民体育館など1か所に集まってやっていただくという形になっていますが、これは指導者の数の問題と地域での活動場所の問題があるわけですが、この辺りを来年度についてはしっかりと整理してなるべく地域で、なかなか一朝一夕にはいかないと思いますが、最終的には各中学校区ごとにやれるような方向で今後考えていくところの一つ大きなところになるだろうと思います。いずれにしても、スポーツクラブ東海の指導者の皆様が本当に前向きに考えていただいておりますので、我々としても応援していった形になるとよいと思っております。

先ほども出ていたように、吹奏楽の方がなかなかないものですから、こちらについては少し教育委員会の方で引っ張って進めていかないといけない部分もあるかなと思っております。来年度は方向がこれだけ見えてきたので、やることもしっかり見えてきていると思っております。

企画部長：

他にご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

それでは、次第2「教育行政の推進に向けた意見交換」に移らせていただきます。

本日は、市長と教育委員の皆さまがお揃いとなる貴重な機会ですので、教育行政の推進に向けた忌憚のない意見交換の場としたいと思いますので、何か意見等がございましたら、発言をお願いします。

村上委員：

能登半島地震があって防災という部分で、今の地域の学校が果たす役割みたいなところで、今後何か新たなことだったり、大きな震災があると改めて防災に力を入れましょう、今まででは不十分ではないかということが出てくると思います。やはり学校というのは大きな役割を果たすところでもあると思いますが、何か改めてということはあったりするのでしょうか。

市長：

防災計画において、学校では体育館が避難所になっています。現在、避難所運営などいろいろなことの課題が見えてきているということです。これから防災ボランティアの関係など長いスパンを見ながら、被災地へ派遣している職員からの情報も確認しながら、不足していることを整理する必要があると考えています。また、被災地の避難所運営も非常に地域差があり、コミュニティがしっかりしているところや防災訓練がしっかりできているところと、高齢者が多くてなかなかリーダーシップが発揮できていないところがあるという能登の状況も聞いておりますので、そのあたりは整理しながら今後検討していくことになるかと思います。

防災ベッドの組み立て等はいつも総合防災訓練でコミュニティ持ち回りでやっておりますが、各地域でコロナの影響等もあり、なかなか地域で防災訓練等もできていないところもあったので、例えば発電機が施設にありますと言ったときに、その地域で動かせる人がいるのかどうか、燃料がちゃんと入っているのかかなど本当に細かいところも少し整理をしながら、これから防災・減災対策に取り組んでまいりたいと思います。

震災の際に学校体育館を使いながら学校をどうしていくかというのは、これからまた教育委員会の方としっかりやっていきたいと思っております。

教育長：

校長会議の中でも、今回の地震があって、まずは各学校にある防災計画をしっかりと見直して、どんなシミュレーションでどのように動けるかということを再確認するよということは話をしました。あとは避難所の関係で、一応体育館が避難所ということになっていますが、今回の能登を見てもそうですが、体育館だけ

では収容しきれない避難者が来た、あるいは季節によっては暑いときにエアコンがないところではとても無理だというようなときに、どうしても普通教室等へも避難者が来ることもあるであろうと思います。学校としては本来、教室は避難所ではないという意識を持っていますが、そうは言ってられない状況が出てくるということは十分考えられるので、そうなった場合にどういう形で避難者を受け入れていくかということもよく考えておかないといけないのではないかという話はしております。学校でもし授業をやっている間に地震が起きれば、当然子どもたちの命・安全第一ということですが、また折に触れ何か新しく話題が出てきたら学校の方にも伝えていきたいと思います。

木村委員：

P T Aや子ども会、自治会などがなかなか一つになれないところがたくさんあると思います。これを機に地域での組織づくりではないですが、つながりづくりなどを行政の方もやっていただけると、市民も当然盛り上げていかなきゃいけないと感じておりますので、考えていけたらと思っております。

市長：

3～4年前から人と人とのつながりや地域との関わりが全体的に希薄になってきたということがあります。またコロナになって人との対面が少なくなって、それがさらに進んだのではないかと危惧しております。

4年前から緑陽コミュニティをモデル地区として、コミュニティを中心としたまちづくりを進めていこうと、取り組んでおります。人材がなかなかいないというものもありますし、子ども会が成り立たないという話などもあり、違う形でやっていくことも含めて、何かあったときに顔の見える関係作りが一番大事だと思っております。

現在4つのコミュニティでモデル地区として、一生懸命考えていただいており、課題を整理して、いろいろなことを地域の皆さんが支援していけるような体制づくりを市として検討していきたいと思っております。

企画部長：

他にご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

それでは最後に、来年度の開催について企画政策課長からご説明いたします。

企画政策課長：

今年度の総合教育会議につきましては、本日をもって終了となります。1年間ありがとうございました。

来年度の総合教育会議は、2回程度の開催を予定しております。

なお、議題につきましては、今日の議題にありましたように引き続き中学校部活動の地域移行につきまして協議を進めてまいりたいと考えております。また、他の協議内容等については、決まり次第、改めてご案内をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

企画部長：

これで、第3回総合教育会議を終わります。

本日は、皆様御多忙の中、ありがとうございました。